



KIRYO

High School Dousoukai

- 発行 -

水戸葵陵高等学校

同窓会

茨城県水戸市
千波町 2369-3

- 編集・印刷 -

同窓会事務局

〒121-0831
足立区舎人 3-11-26EPS
03-5839-3456 (代)

第2号
2024年2月吉日



Topics

同窓会会長・校長挨拶	2P
卒業生の大活躍・卒業生の声	3P
学校行事	4P
部活動の状況	5P
葵陵の進化・卒業生の進路状況	6P
現職員より	7P
同窓会からのお知らせ・総会開催について・編集後記	8P



後輩たちに負けない 同窓会を目指そう

同窓会会長 小林寛宣

同窓生の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。同窓会会長の小林寛宣でございます。新型コロナウイルスは第5類に移行したもののインフルエンザが猛威を振るい、円安の進行や物価高目を世界に転じればウクライナ・ロシア危機、イスラエルのガザ侵攻など、先行き不透明で不安な状況の中、ご苦労されながらもご活躍のことと存じます。水戸葵陵高校同窓会もこの度、会報第2号の発行の日を迎えられることができ、ご協力いただいた同窓生の皆様や水戸葵陵高等学校の先生方に心より感謝いたします。

皆様の後輩たちは日々勉強に、部活動に精一杯取り組んでおります。そしてその活躍ぶりは、マスコミ等を通じて皆様の下にも届いていることでしょう。後輩たちの生き活きとした姿を見ると、卒業生としてとてもうれしく感じるのは皆さんも同じだと思います。水戸高、葵陵といえば運動部のイメージが強いですが、今は書道部やブラスパ

ンド部、将棋部などの文化部も意欲的に活動しております。多方面にわたってその名を轟かしてくれる後輩たちはとても誇らしく感じております。

さて、1985年（昭和60年）に開校した我らの母校は、2025年に創立40周年を迎えます。この区切りの良い年を迎えるにあたり、同窓会の活動も一気に軌道に乗せられたらと考えております。私たち同窓会も後輩に負けないように活動を活性化させ、少しでも母校の支援に繋がりたいと思います。そこで第1回同窓会総会を、創立40周年を迎える2025年に開催できるよう、検討に入りたいと思います。それには皆様のご協力が不可欠です。是非よろしく願いいたします。

また、この同窓会報や水戸葵陵高校ホームページ内の同窓会のページなどを、皆様大いに活用してください。クラス会を開く際の連絡用に、仕事のPRに、さまざまな利用法が考えられると思います。ご意見ご要望がございましたら、水戸葵陵高校ホームページ同窓会ページにあるメールフォーム、または本会誌8ページにある連絡先にて承ります。

最後に、同窓会会報の発行が遅くなってしまったことを心よりお詫び申し上げるとともに、同窓会会員の皆様の益々のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



同窓会は希望を 共有する場

校長 鈴木博光

皆様、こんにちは。校長の鈴木でございます。

同窓生の皆様には、日頃から大変お世話になっております。本校も創立から38年が経過し、この間、教育環境を整備しながら一万人の卒業生を輩出し、皆様方が様々な分野で活躍なされていることと拝察いたします。同窓会の結束は、私たちの学校が持つ特別な絆の一部です。

現代社会は、激しくしかも急速に変化し、一昔前までの時代とは比較にならないほど多様で複雑です。技術の進化、社会構造の変化、環境への挑戦など、私たちが直面する課題は数多くあります。こうした課題に立ち向かうために、同窓生の皆様方には大きな役割が求められています。私たちが

大切にしてきた価値観や教育をもとに、どのようにして現代社会で生き抜くか、その方法は常に問われるべきです。同窓会はそのサポートを提供し、互いに助け合い、成長し続けるところであると考えます。皆様方がさまざまな分野で成功し、社会に貢献していることを聞くと、私たちは誇りに思います。同窓会は、この誇りと絆を強化し、未来への希望を共有していく場であります。

どんなに変化する社会であっても、本校の創立者である田中重信先生が掲げた建学の精神「人を愛し、国を愛し、平和を愛し」、この崇高な理念を抱き、同窓生の皆様方が輝き続けることを願っております。同窓会を通じて、更なる交流と連携を築き、共に未来に向かって進んでいきましょう。

同窓会の活動が益々繁栄し、皆様方が幸せに満ちた日々を送られることを祈念し、改めてお祈り申し上げます。どうぞお体に気を付け、ご健勝でありますように。

卒業生の大活躍

去る令和5年1月3日(金)日本武道館において開催された第71回全日本剣道選手権大会で、水戸葵陵高校剣道部出身の栗田龍介君(平成31年卒 現広島県警)が見事初出場にして優勝を果たしました。葵陵剣道部は卒業後も輝かしい戦績を残しています。栗田君の他にも、今年度の全日本学生剣道選手権大会で木村恵都君(令和2年卒 現鹿屋体育大学4年)が優勝しています。同大会の前年度の覇者岩部光君(令和元年卒 当時国士館大学4年)も本校剣道部出身です。社会人大会では第65回全

日本実業団剣道大会(令和5年9月18日開催、日本武道館)において優勝したパナソニック EW 門真の中堅として安井奎祐君(平成26年卒)が活躍しました。本校職員となった中根悠也君(平成26年卒)も現役選手として全国教職員剣道大会で令和元年に団体メンバーとして優勝、令和5年の大会で団体3位、個人3位に入賞しています。卒業してもなお精進し続け、稽古に励み、頂点を目指している剣道部のOBたちには心から敬意を表すとともに、これからの活躍に注目していきたいと思います。
(水戸葵陵高等学校同窓会編集委員)

卒業生の声

「相手の立場に立って」

思い返せば、学生時代の私は学力も高くなく、秀でた能力があったわけでもなかった。高校卒業後、都内の寿司屋で8年間働いたあと退職し、叔父が代表を務める紙おしぼりの製造販売の会社に就職した。

私は現在、会社の代表を務めているが、20年前、2名だった会社はweb事業も加わり今では13名になった。入社当初は、何故自分ばかりこんなことを経験しなければいけないのか、という日々だった。それでも逃げずにやってきたこと、そして多くの人に助けられて20年以上続けていくことができた。

当時は薄利多売の業界から脱却するのに様々な挑戦をした。良い結果になる事は多くはないが、1つ上げるとすれば、15年前、高品質で環境に配慮した製品開発をしたことだ。なかなか日の目を見ることがなかったが、不思議な出会いが重なり、2019年の大阪サミットで採用されることになった。その製品が形を変え、有難いことに今では環境問題に取り組む多くの有名企業に採用されるまでになった。小さな企業でも前向きに、良いものを作り続けていけば、このようなことが

起こるのだと実感した貴重な経験だった。

そんな私が社員に話すことの1つに『相手の立場に立って考え、行動する』ということがある。これは学生の頃から言われていることで、まさか私が代表になって言う立場になるとは思ってもいなかった。当たり前で次元が低いように感じられるかもしれない。しかし、技術、経験は時間と共に身につくが、これは本当に難しく、今でも自身に言い聞かせている。同僚や顧客、仕入先、それぞれの立場があって一人で仕事することは決してない。学んだ知識、経験は財産だが、『相手の立場に立って・・・』が伴って初めて武器になる。今は社員一人一人がそれをもって前進しているように思う。

優秀ではない人間が天に、人に助けられながら何とか経営者をやれている。

私の小さな経験が少しでも葵陵高校の生徒の皆さんへ励ましとなれば幸いである。これからも自身の使命『事業の発展を通して、社会貢献を続ける』ことを、感謝をもって全うしたい。
吉野志門(平成5年卒業 株式会社サンテック代表取締役)



「心を鍛える教育」

この度は、水戸葵陵高等学校同窓会報第2号の発行、誠におめでとうございます。発行にあたりご尽力をいただきました学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は、水戸短期大学付属水戸高校で入学し、水戸葵陵高校で卒業を致しました。1つ下の学年から校名や制服が変更になり、私の学年が最後の茶色い制服となりました。

高校生活を振り返ると、恥ずかしながら授業中の事は記憶になく…思い浮かぶのは、初の海外旅行であるフランスへの修学旅行です。今思えば、もっと芸術的な建物や美術品等をしっかりと堪能すればよかったと思いますが、当時はその良さやありがたみが分からずに行動していたと思います。しかしながら、大人になってもなかなか海外に行く機会がない私にとっては、貴重な経験として今も思い出として記憶に残っております。

そして、1番の思い出は所属していた野球部での生活です。今でも夏の大会等では応援に行っております。今年からまた、夏の大会では全校応援になり、さらにやりがいや、全校生徒が球場で直接応援してくれる醍醐味を感じました。現役部員達も当たり前が当たり前ではない事を胸に、頑張っていたきたいと思います。

私は、高校での野球部生活に今の自分の人間性の基礎を作っていたのだと言っても過言ではありません。3年時には主将も務めさせていただき、当時は問題児の多い後輩達

で苦労はしましたが…それもあって、3年間での高校通算は56発です(笑)。分かる人には分かると思いますが…ホームラン数では御座いません。今ではその後輩達がいち飲み会に声を掛けてくれます。試合の結果や成績の事よりも、怒られた事・辛かった事・迷惑をかけてしまった事・合宿での事など…全てが笑い話になっております。

野球部で学んだ事は、辛い事に【我慢する心】、苦しい事に【耐える心】、悔しい時に【歯を食いしばる心】、池上監督の存在【プレッシャーに負けない心】、西長先生のノック【イレギュラーに対応する能力】など…最終的には、【気遣い・思いやりの心】【全ての事が当たり前ではない感謝の心】を学びました。社会人になっても、必要な心ばかりです。

高校時代には何にも代え難い経験・時間を過ごさせていただき、感謝しきれないほどの実りある3年間を過ごさせていただきました。現在でもお仕事として、葵陵高校様とは関わらせていただく事もあり、繋がりがや緑はとても大切だと思っております。

最後になりますが、今回寄稿をさせていただいた機会に感謝をし、水戸葵陵高校の益々のご発展と先生方、卒業生の方々、現役生徒の皆様のご活躍を祈念しております。

大森 健輔(平成13年卒業 株式会社大森食品代表取締役)



「挑戦」

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。平成19年度卒業生の白戸諒と申します。私は現在、水戸葵陵高等学校で英語科の教員として日々生徒に向き合っております。

葵陵高校に赴任して12年目となりましたが、社会の在り方がめまぐるしく変化している中で、「学校」という社会にも、変化の波が押し寄せてきていることを日々実感しております。例えば、私が高校時代に放映されたドラマで「女王の教室」というものがありました。天海祐希さんが演じる教師が、生徒に厳しい言葉浴びせながらも、生徒に真剣に向き合い、人間としての成長を助けるといった内容でした。しかし、現代の教育現場は必ずしもそういった「厳しさ」が求められるとは限らないということです。昔と異なり、現代社会では多様性が求められます。学校現場においても、生徒個人の価値観に寄り添い、教育が展開されています。そしてそれは水戸葵陵高校も例外ではありません。昨年度から、新たな部活動が次々と誕生し、生徒の意見が学校現場にしっかりと反映されております。ぜひ、お時間がある時に、葵陵高校にお立ち寄りください。新しいMITO KIRYOを体感していただくことが

できるかと思えます。

私は、当時担任をしてくださった先生の姿を見て教師になりたいと考えるようになりました。その先生でなければ、葵陵高校で教員にはなっていなかったと思います。そして、葵陵高校に赴任後も、校長先生をはじめ多くの先生方にお世話になり現在に至ります。ある意味では、水戸葵陵が私を創り上げたと言っても過言ではありません。それほどのエネルギーがこの水戸葵陵高校にはあるということです。私も微力ではありますが、水戸葵陵高校をさらに発展させられるよう挑戦し続けていく所存です。その挑戦の一端として、昨年度よりインターンシップを立ち上げました。地域社会と学校のつながりを強くし、地域に愛される水戸葵陵を目指していきたいと考えております。ぜひ、同窓会員様の中で、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただければ幸いです。

引き続き、本校へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。
白戸諒（平成20年卒業 現水戸葵陵高等学校教諭）



「私にとっての葵陵」

私が過ごした高校生活最後の学年は、この文章をお読みいただいているほとんどの方よりも短いものだったでしょう。最高学年に進級した春に新型コロナウイルスによる突然の一斉休校。初めての実施となった大学入学共通テスト前後の登校自粛。満身に登校できた期間は2学期の数か月間のみで、あっという間に過ぎてしまった1年間でした。自粛期間中、家にずっと居ながらも受験勉強をし続けなければいけないストレスは、今考えても尋常ではないものでした。特に、最も得意だと感じていた英語の学習に行き詰まりを感じ、問題を解くだけで涙を流すようになってしまった時には本当に心が折れそうになりました。そのような満身に学校に行けない状態でも、先生方は手厚い指導を続けてくださいました。葵陵は高校生の私にとって、落ち着いて学習に取り組める学び舎であり、最も信頼している先生方とお話ができる精神的な支柱となる場所でした。

激動の年から3年が経ち、今は中学生からの目標であった

英語教師を目指して教員養成系の大学で学んでいます。最近では教育実習を間近に控え準備に明け暮れるなかで、どうしても葵陵の先生方に謝罪したい記憶を頻繁に思い出しています。その記憶というのは、どうしても眠気に抗えず何度か授業中に寝てしまっていたことです。教師を目指している今だからこそ身をもって知った授業設計の大変さを踏まえると、土下座をしなければいけない愚行をしてしまったと心から反省しています。先生方、本当に申し訳ありませんでした。

改めて、今の私にとっての葵陵は大きな目標となっています。大学で多くのことを吸収し、かつて指導してくださった先生方のような教育者として、今度は生徒ではなく教師として葵陵に還元できればと考えています。

最後にはなりますが、これからも水戸葵陵高等学校がご発展されることを心から祈っております。本当にお世話になりました。
柳下 真輝（令和3年卒業 東京学芸大学教育学部3年）



学校行事

「文化祭～新たな一歩～」

今年度の文化祭は「葵陵革命～また一歩新たな時代へ～」というテーマを掲げ、昨年以上に充実した内容にしようと、文化祭実行委員会を中心に計画・実行して

参りました。

感染症の影響があり、本校の文化祭も形を変えながら行ってまいりましたが、昨年度からコロナ禍以前のような各クラスの展示が再開でき、今年度は校内だけでなく部分公開（保護者等）を行い、飲食物の出店もすることができました。以前では考えることのでなかった感染症対策は生徒にとって充実した学校生活を送るために必要不可欠なことになっております。しかし、そのような配慮は今後生きていく中でも必要なことであると前向きに捉え、楽しむだけでなく周囲への配慮も文化祭を通じて学ぶことができたと考えております。

今年度の文化祭は6月15日オープニングセレモニー、16日校内公開、17日部分公開という日程で行いました。コロナ禍以前の文化祭を知っている生徒がいなく行うこととなりました。そのため、テーマにもあるように「新

たな一歩」を踏み出せるように文化祭実行委員会を中心として新しい考えを取り入れました。特に、新たなクラブ活動として発足したeスポーツ、軽音楽、ダンスなどの団体のパフォーマンスや展示は大きく文化祭を盛り上げてくれたと感じております。

今後、水戸葵陵高校の文化祭の伝統を守りつつ、コロナ禍以前の文化祭にとらわれることなく生徒の個性や時代の変化に応じて文化祭を更に良いものにしていけたらと考えております。そのためには生徒の活力となる文化祭の来観者の方の存在はとて大きいと考えております。今後、一般公開に向けて計画していきたいと考えておりますので、その際には是非多くの来観をお願いできたら幸いです。

岡部 巧（平成27年卒業 現水戸葵陵高等学校教諭）



「4年ぶりに行われた夏の高校野球全校応援」

令和5年7月6日(土)に開幕した第105回全国高等学校野球選手権記念茨城大会は、7月26日(水)に土浦日大が霞ヶ浦を5対3で撃破し終了した。この大会は、4年ぶりに野球応援が解禁され、本校も3回戦が全校応援となった。皆さんもご存じの通り、本校は常設の応援部はなく、現在も各クラス代表の応援委員会とチアリーディング部、プラスバンド部が中心となって応援を行っている。応援委員、チアリーディングはじめ、全校生徒みな野球応援の経験がない。どんな応援になるか、生徒たちは盛り上がりつつあるのか、注目していた。初戦(2回戦、対土浦工業高校)は自由応援だった。会場が土浦市営球場だったこともあり、参加した生徒は3年生中心のやさみしい応援となった。初戦の緊張感からか、5回を終わって3対1とやや苦戦していたが、6回裏に一挙8点を奪い、終わってみれば11対1の6回コールドで勝利した。応援の生徒達も初めは戸惑いながらの応援だったが、徐々にコツをつかんでいき、後半は元気いっぱい応援となった。

この勢いに乗って、3回戦の茨城高校戦に臨んだ。序盤に5点差をつけられ、苦しい展開になったが、4回に3点、5回に2点を返し、5回を終わって5対6と1点差に詰め寄った。気温30度を超える灼熱の中、応援委員やチアリーディングの生徒のみならず、サッカー部・バスケットボール部・剣道部等の諸君や3年生が中心となって応援をリードし、全校生徒が一丸となった応援は最高潮に達した。水戸高校時代から野球応援に参加していた私も、この試合の生徒の盛り上がりからは、2007年の夏、準々決勝の竜ヶ崎一高戦を彷彿とさせるものがあった。結果は残念ながら5対7と惜敗してしまった。勢いに乗った茨城高校は4回戦で第1シードの

常総学院を5対3で破り準々決勝まで勝ち進んだ。

野球部としては悔しい結果となったが、とても良い全校応援となった。生徒たちの生き生きとした精一杯の応援は実に高校生らしく、生徒たちの記憶にもしっかりと刻まれたことと思う。(水戸葵陵高等学校同窓会編集委員)



部活動

「水戸葵陵高校の部活動の状況」

葵陵高校は、現在も様々な部活動が以前にも増して目覚ましい活躍をしている。なかでも「葵陵」といえば、いわずと知れた剣道部である。令和4年度も選抜大会、インターハイに出場し、国体にも3名の選手が選抜された。ここ十数年の剣道部の活躍を見れば、「全国大会出場」は当たり前のような状況であり、監督の君島先生も、目指しているものは「全国制覇」である。そのような中で第50回秋田魁星旗争奪選抜剣道大会では、18年ぶり6度目の優勝を飾った。魁星旗で6度の優勝は最多記録である。第70回全国高等学校総合体育大会(インターハイ)では、準決勝で優勝した九州学院に代表戦までもつれたが、惜しくも敗れてしまい、悔しい3位という結果になった。君島監督が目黒いうちに是非魁星旗、玉竜旗、選抜、インターハイのグランドスラムを決めてほしいものである。実は近年、女子も活躍しており、令和4年度は関東大会に団体・個人で出場を果たし、国体にも1名選抜された。令和5年度も関東大会に団体で出場している。女子剣道部も相馬監督の下、着実に実力を伸ばしている。

剣道部に続いて活躍目覚ましい部活動は、柔道部、スキー部の伝統ある部活動であろう。柔道部も関東大会、全国大会常連校である。昨年度の国体で茨城県代表選手1名(先鋒)を輩出した。今年度は関東大会に男女ともに団体で、個人では男子が1名出場、関東ジュニア大会女子個人6名、インターハイには個人で男女合わせて3名が茨城県代表として出場した。創部34年目のスキー部は、チームを率いていた益子一也先生が昨年度末をもって退職されたため今年度の実績はないものの、これまで国体最高13位(女子リレー)、関東大会3度の優勝、インターハイ、国体連続34回出場、選抜大会10回出場の輝かしい実績を残した。益子先生は全日本スキー連盟傘下のクラブチーム「葵 XC 水戸(キクロスミト)」を立ち上げるとともに、茨城県のスキー競技向上に奮闘中である。

近年では、個人で技術を磨いて全国大会などに出場している選手も多く入学している。フェンシングは、数名の全国大会常連の選手が入学し、関東大会で6位入賞(個人)やインターハイ団体ベスト16、全日本選手権にも出場を果たすなどの実績をあげている。さらに馬術競技に出場する選手もおり(令和5年に卒業)、昨年度栃木国体個人少年標準障害飛越で優勝している。

新興勢力として挙げられるのは男女バスケットボール部と駅伝部であろう。バスケットボール部は、男子が県ベスト8、女子は県ベスト4に入る活躍を見せており、かなり盛り上がってきている。ともに茨城県には高くそびえる強豪校が存在するが、必ずや近い将来その牙城を崩してくれることと期待している。また、駅伝部は近年、関東大会でも上位に入る記録を残している。そして注目すべきは、いよいよ駅伝部OBが箱根駅伝を走る可能性が高まっていることである。令和6年の箱根駅伝の出場が決まっているシード校の城西大学、予選会トップ通過の大東文化大学、伝統校の日本大学にOBが所属している。この会報が届くころには、箱根での歓喜の余韻に浸っていることだろう。

葵陵の部活といえば運動部のイメージが強いが、文化部も輝きを見せている。まずは書道部。全国高等学校書道パフォーマンス甲子園には5大会連続で出場した。特に今年は関東予選1位通過という素晴らしい成績で出場を果たし、本大会でも7位を獲得した。全国高等学校総合文化祭では14年連続出品し、うち文化庁長官賞はじめ入賞5回、県内では最多の受賞数を誇る。また、様々なイベントでパフォーマンスを依頼されたり、マスコミに露出する機会が増えたりと、葵陵の広報活動にも多大な貢献をさせていただいている。将棋部も全国高等学校総合文化祭や関東大会などにも常連校になっており、昨年度は関東大会女子個人5位、今年度は総文祭で女子団体9位という結果を残している。

今後ますます葵陵の部活動は活発化していくと思われる。同窓生の皆さんも是非後輩の活躍に注目してほしい。(水戸葵陵高等学校 特活指導部)

「新たな同好会の誕生」

令和4年度には、新たな同好会が誕生しました。まず、注目はeスポーツ同好会。近年注目を浴びているeスポーツ。現在、会員数19名を数えています。大会での実績はまだほとんどありませんが、今後に期待したいと思います。続いてダンス同好会。現在、会員数は男子1名女子8名の計9名。外部から講師の先生をお呼びして練習に励んでいます。経験者が多く、イベントでダンスを披露する機会も増えています。3つ目は軽音楽同好会。会員数は15名。活動内容は、週1回の練習とイベントへの参加、定期的な発表会などです。最後に釣り同好会。会員数は現在5名。定期的に濁沼川や大洗港などで釣り大会を実施し、シーズンオフには管理釣り場で釣りを楽しんでいます。どの同好会も意欲的に活動しており、イベントへの参加も積極的にを行っていますので、お見かけした際はぜひ応援してあげてください。
(水戸葵陵高等学校 特活指導部)



「葵陵の進化!!」

葵陵高校は進化しています……。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、新しい設備などが入っています。まず、昨年からパンの自販機が入りました。

さらに今年はアイスクリームの自販機も導入しました。また、本校卒業生の加藤伸康君(平成7年卒 Sweets HERO キッチンカーオーナー)が経営しているクレープ販売のキッチンカーも定期的に来て生徒達に販売しています(実は教員にも結構人気があります)。2024年度入学生から、体操服が今よりもスタイリッシュなデザインに変更されます。

これからも少しずつ変わっていく葵陵ですが、皆さんが作り上げた伝統もしっかり受け継いでいってくださることを期待したいと思います。



令和4年度 卒業生の進路状況

1. 令和5年3月卒業生 進路先(実数)

種別	男	女	計
国立大	9	7	16
公立大	3	1	4
私立大	99	44	143
文部科学省所管外の大学校	1	0	1
国公立短大	0	0	0
私立短大	1	2	3
国公立専修・各種学校	6	1	7
私立専修・各種学校	30	30	60
就職	9	7	16
進学準備	7	2	9
その他	0	0	0
計	165	94	259

3. 令和5年3月卒業生の学部別進学数(実数)

	人文	法・政治	商・経済	社会	理	工	農・獣医
国立				2	4	3	
公立						1	
私立	14	10	34	24	1	7	1
文科省管轄外の大学校						1	
計	14	10	34	26	5	12	1

	医	歯	薬	看護・他	家政	教育	その他
国立				2		4	1
公立				1			2
私立	1		4	26	3	14	4
文科省管轄外の大学校							
計	1	0	4	29	3	18	7

2. 卒業生の大学合格者人数(重複を含む)

学校別	現役	過年度卒	計
国立大学	19	1	20
公立大学	7	0	7
文部科学省所管外の大学校	39	0	39
私立大学	233	13	246
短期大学	2	0	2
その他	1	0	1
計	301	14	315

(水戸葵陵高等学校 進路指導部)

現職員より

「限られた人生を楽しく！」

卒業生の皆さん、こんにちは。
私は平成元年（昭和64年）、水戸葵陵高等学校の前身である水戸短期大学附属水戸高等学校に着任し、現在も非常勤講師として奉職させて頂いております。

本校の沿革に目を遣り、これまでを振り返ると、正に激動の三十有余年をあっという間に駆け抜けたという感があります。年号も昭和、平成、令和と変わりました。元気にやってこられたのは、何よりも同僚や諸先輩方の教えやサポートに支えられたこととケセラセラ的な能天気な性格のなせる技だと思えます。ただし、昨今の ICT 教育の導入による様々な変化に対しては、バリバリの昭和の男は後れを取ってしまうのが現実であります。

さて、皆さんはストレスとうまく付き合っていますか。恥づかしい話ですが、以前の私は「ストレスとは仕事ができない人間の泣き言」位にしか受け止めていませんでした。私も仕事の上で難題が生じたり、気が進まない案件を抱えたことも多々ありました。しかし、そんなときでも私は夕方にはスーパーで買い物をし、帰宅後5分以内にはキッチンに立ち、調理を始めるのです。勿論、目の前の棚にはコップが置いてあります。言わずもがな、中にはなみなみと酒が注がれているのです。所謂キッチンドリinkerです。こうして、毎日私のラグジュアリータイムが始まるわけです。目覚めると、翌日の朝なのです。夕べの記憶と一緒に昨日の嫌なことも消え去っています。この贅沢な時間がストレスから私を解放してくれるのです。

また、私は生活信条として、「物事はいずれ時間が解決してくれる。」と捉え、問題解決には、ひたすら打開策を考え続ける事が肝要だと考えます。諦めずに取り組めば道は開けるものです。勿論、無手勝流からは何も生まれません。

私は、教育の現場で時間の大切さ・時間厳守を訴えてきました。それは、地球には終わりがあり、人生にも終わりがあるということです。有限である以上、私たちは時間を大切に生きるべきであると考えからであります。時勢に遅れてはいけないのです。ここで、中国に伝わる古い諺を紹介します。

一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。

三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。

八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。

永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。

しかし、現実には調べるに、その諺の存在を確認することはできないのであります。どうやら、作家の開高健（故人）が著書「オーパ」で述べたのが発端らしいのです。

申し遅れましたが、私は自他共に認める釣り気狂いであり、杯を傾けたり、釣りをしたり、バイクを走らせたりと多忙すぎて何かと悩む時間がないのが現実ですから、ストレスに苛まれる暇がないと言うことです。みなさんもストレスを貯めないように何か趣味や楽しみをもち、限られた人生を精一杯楽しく過ごして下さい。

最後になりましたが、みなさんの健康・更なる活躍と葵陵高校の発展を衷心よりお祈りしております。

Good Luck !

永遠に幸せな 坂本一成（元水戸葵陵高等学校教頭 現非常勤講師）



「“A rolling stone gathers no moss”？」

「転がる石に苔には生えない」この諺を初めて知ったのは高校時代の英語の授業に於いてであったと記憶する。この諺には全く対照的な2つの解釈があるのだと先生が説明して下さいました。即ち一つは「頻繁に住居や職業を変える人は金もたまらず人生の成功は無い。今いる場所にとどまる忍耐が必要である。」というもの、もう一つは「柔軟かつ活発に活動している人はいつまでも古くならず新鮮でいられる」というものである。苔を良いもの、例えば成功、出世のようなものとして捉えると前者の解釈となるし、逆に悪いもの、例えば悪しき風習や慣例のようなものとして捉えると後者の解釈になろう。

英語の語呂の良さや同じ諺に正反対の解釈があるという興味深さもあり、この諺は強く心に残ったことを覚えている。又、ちょっとした捉え方の違いで人生のあり方は全く違ったものに見えてしまうと考えさせられました。

今、これまでの自分の人生を振り返ってみると、この諺の両方の解釈を地で行くものであったような気がする。

大学進学のために一人暮らしを始めて以後家族を持つまで住居を変えること14回、度々職場も変えるという何とも落ち着きの悪い生活を続け、お金はたまらず社会的地位も得られなかった。この諺の第一の解釈通り、一つの場所で辛抱していたなら経済的社会的にもう少し余裕のある生活を送っていたかもしれぬ。

だが、この時代の落ち着きの無さを自分は全く後悔してい

ない。むしろそれを通して自分の人生は何倍もスリリングで楽しいものになったのだと思う。一つの場所である程度の目標を達成できると次のステージへと向かいたくなるのだ。そして動き出す。動き出すと不思議と素晴らしい出会いが訪れた。それは物理的なもの以上に、素晴らしい人々との出会いであった。ある人々は尊敬すべき師として新しい世界へと自分を導いてくださった。ある人々は苦境にある自分に温かい手を差し伸べてくださった。又、ある人々は良き理解者として自分が次のステージに進む機会を与えてくださった。そうした人々との出会いは金銭的な豊かさなどでは計ることの出来ないかけがえの無い宝であり、自分が活発に動いたからこそ得られたのだと思う。

私はこれからも“転がる石”として次のステップへ進み続けたいと思う。時にその石はラグビーボールのようにイレギュラーなバウンドをするかもしれないが……。

平賀 雅道（元水戸葵陵高等学校教頭現非常勤講師）



同窓会報の原稿募集！！

水戸葵陵高等学校同窓会報は、年 1 回発行を目指しております。同窓生の皆様に、近況や母校への温かい叱咤激励の文などを会報に掲載したいと思っております。是非ご協力をお願いします。

1. 文字数に指定はありません。書式も自由です。
2. できればお写真など、ご提供いただければと思います。(もちろん任意です)
3. いつでも募集しております。
4. 送付先 〒310-0851 茨城県水戸市千波町中山 2369-3 水戸葵陵高等学校同窓会担当宛
メール dosokai@kiryo.ac.jp
5. お問い合わせ 水戸葵陵高等学校同窓会担当 TEL029-243-7718 (代表) または上記メールアドレス

水戸葵陵高校の HP に同窓会のページ完成！！

水戸葵陵高等学校のホームページでは、在校生の近況が詳しく掲載されております。是非目を通してください。なお、葵陵のホームページに同窓会のページが完成しました！そこで皆さんの近況などを載せていきたいと思っております。「クラス会を開くよ」や「今度母校に遊びに行くけど、だれか一緒に行きませんか」など、同窓生の情報交換、交流の場に使用いただければと思っております。また、他の活用法など、何かアイデアやお問い合わせがあれば、是非ご連絡ください。連絡先は水戸葵陵高校同窓会担当(029-243-7718)または dosokai@kiryo.ac.jp

同窓会報作成のお手伝い募集！！

会報作成のお手伝いをしていただける方を募集いたします。興味のある方がいらっしゃいましたら、水戸葵陵高校同窓会担当(029-243-7718)またはdosokai@kiryo.ac.jpまでご連絡ください。

同窓会総会開催について

1985年(昭和60年)に水戸短期大学附属水戸高等学校として開校した水戸葵陵高等学校は、2025年に創立40周年を迎えます。水戸葵陵高校同窓会は、創立40周年を迎えるにあたり、第1回目の同窓会総会を開催したいと思っております。しかしまだ全く白紙の状態です。今後少しずつ計画を進めたいと考えておりますが、どのような総会にするか、アイデアを募集いたします。また、総会開催に当たり、お手伝いいただける方がありましたらこちらも募集いたします。水戸葵陵高校同窓会担当(029-243-7718)またはdosokai@kiryo.ac.jpまでお願いいたします。同窓会総会をきっかけに懐かしい同級生や先輩、後輩と旧交を温めませんか？盛大な会が開ければ、と思っております。ご協力をお願いします。

編集後記

大変遅くなりましたが、同窓会報第2号がようやく完成しました。今回も寄稿をお寄せいただいたOBの皆さん、水戸葵陵高校の校長先生や教職員の皆さん、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

令和5年は異常な暑さの夏、コロナ禍が落ち着いたと思ったらインフルエンザの大流行、円安の進行に物価高、ウクライナ紛争にパレスチナ問題など、日本も世界も何かおかしい一年でした。そのような中、各方面で活躍している卒業生や皆さんの後輩にあたる現役高校生の現況をお知らせすることで、我々を取り巻く厚い雲を吹き飛ばせたら、と思っております。お忙しい時間の合間、この同窓会報に目を向けていただき、少しでも穏やかな気持ちになっていただけることを期待しております。またこれからもそんな会報にしていきたいと思っております。皆さんも是非ご協力ください。

(水戸葵陵高等学校同窓会報編集委員)

お問合せ・近況・メッセージ・住所変更等は.....

お問い合わせ(住所変更等はこちらへ)

☆

ダイヤル 0120-10-9899 (内線 103) 平日 10:00~17:00

✉

F A X 0120-10-9184 (終日受付)

